

種目【国語】

書名 項目	<h1>新編 新しい国語</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 2 東 書 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各領域の学習の中で「知識及び技能」に示された事項について必要に応じて取り立てて学習する場面を設けている。 ○学習の基盤として習得すべき知識や技能を「おさえる」と明示している。 ○仮名や漢字の読み書き、児童がつまずきやすく習得に課題のある事項について練習教材が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○单元ごとに、「つかむ」では、学習の見通しを持たせ、「ふり返る」では、気をつけたこと、できるようになったことを確認させるという学習の進め方の構成になっている。さらに、育成すべき「言葉の力」を明確にしている。 ○言葉の力として、单元冒頭と单元末に示すことで、どんな力を身に付けるかがわかる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の冒頭に年間の学習を見通して自らのめあてを明らかにする場面、学年末に年間の学習をふり返る場面を設けている。 ○「話す・聞く」「書く」の单元では、スピーチや作文の例が提示してあり、参考にできる。 <p><言語感覚を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話す・聞く」「書く」「読む」の单元で「言葉の力」を明示し、螺旋的・反復的な学習を通じて言葉の力を積み上げ児童の言葉による見方・考え方を豊かにしている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○单元の学習に関わる本を紹介した「こんな本もいっしょに」のほか、随所に読書活動に関わる内容を位置づけている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○单元ごと一番最初のページに小さくイラストや写真が入っている。 ○説明文（3年生）では、児童に身近である、ほげんだよりを入れている。 ○单元に合わせて、淡い、濃いイラストになっている。写真もイラストも美しい。 ○脚注の新出漢字には水色で囲みがしてある。前学年で習った漢字の学習では、確認テスト形式になっていて、答えが巻末に示されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○目次の次に「国語の学習の進め方」が示してあり、各单元で使われている「言葉の力」「つながる」などのコーナーの色や内容の説明がある。 ○各单元冒頭ページに单元のねらいと言語活動が明記されている。 ○脚注罫線に、1行ごとに点を示したり、手書き文字に近い書体を使ったり、すべての児童に見分けやすい配色を使ったりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学習を通して、学習の重点となる「言葉の力」が着実に積み重ねられるよう配列されている。既習事項との関連を示す「つながる」や他教科や実生活に活用できるよう「ひろがる」欄を設けている。「日本のしらべ」や「日本の言の葉」を設け、優れた言語文化への理解と愛着、豊かな言語感覚を養うようになっている。 ○5・6年生も上下巻。（重さの軽減、新しい教科書に出会う喜び、ゆとりをもった紙面） 	

種目【国語】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校国語	11 学 区
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○語句や漢字、言葉の意味については「言葉のいずみ」、語法や文法、日本語の使い方については「言葉のきまり」として取り立てて教材化し、段階的に学習が進められるようにしている。 ○教材どうしを関連させ連続させた単元配列にすることで、必要な技能を押さえさせている。 ○長く語り継がれていた昔話や俳句・慣用句・短歌・ことわざ・文語詩・漢詩・狂言などを取り上げ、美しい言葉の響きやリズム、昔の見方・考え方に触れられるようにしている。 ○「学習の手引き」に絵の並び替えや書き込み表作りなどがあり、ワーク的要素が見られた。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「話す・聞く・話し合う」活動を系統的に位置づけ、年間2～3カ所の単元を中心に、小教材を適宜設定し、主体的に話したり、聞いたり、話し合ったりする力を養えるようにしている。 ○言語活動の中で図化・表化・イメージマップなどの思考・表現方法を学び、情報を視覚的に表して思考を整理させるようにしている。 ○2年生以上の「季節のたより」では、写真の掲載や四季折々の言葉の説明があり、それらを元に表現活動につなげている。 (言葉をカードにする、経験を詩にする、感じたことを俳句や短歌にする等) </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学年の最初に、その学年で付けたい力を一覧で示し、1年間の学習を見通せるようにしている。学年末に1年間の学習をふり返り、達成感をもたせ、今後の学びへの意欲付けをしている。 ○巻末に「授業で使う言葉」の解説があり、学びを深める一助となっている。 </p> <p> <言語感覚を養うための工夫> ○各学年1カ所、言葉の美しい響きやリズムを声に出して味わえる教材を設定し、昔から現在へ受け継がれてきた言語文化に親しむことができるようにしている。 ○「言葉で遊ぼう」では、長く親しまれている早口言葉などの言葉遊びを取り上げ、楽しみながら言葉の豊かさに気づけるようにしている。 </p> <p> <読書に親しむ態度を育成するための工夫> ○読書単元を中心に作品を楽しみ、味わいながらおもしろさに気付き、豊かな読書生活へつながるように、本との出会いの場が様々な場所に設けられている。また、主体的な情報の活用ができるようにその方法を学び、他教科でも使える知識や技能を身に付けられるように、学びの積み上げに配慮した配列になっている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭詩が見開きで、関連するカラー写真が全体にあり興味を引く。 ○絵や写真と文章とを対応させて読む教材を設定し、絵や写真から読み取ったことを元に活動を行うよう工夫している。 ○文章の内容をまとめたり、考えを整理・形成したりするときに活用できるよう適宜、表やイメージマップなどを配置している。 ○点字の凹凸を再現した資料ページを設け、実際に触れて理解を深める工夫をしている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○漢字の未習・既習を厳密に適用した表記では、熟語の場合、読みにくさをまねくこともあるため、上位学年の漢字が含まれる熟語もルビをふって適宜漢字を使用している。 ○表記・表現は全学年にわたって統一し、正しい表記が身に付くように配慮している。 ○単語や文節が行をまたぐことがないように改行位置が調節されている。 </p>	
総 括	<p> ○各単元において、学び方や目標達成のための手順が示されており、学び方を学びながら活用力と豊かな心を育てる構成になっている。各巻末に「保護者の方へ」のページを設け、児童が今、学校で何を学んでいるか、教科の時間でどんな力を付けようとしているのかをまとめていて、把握しやすくしている。 ○巻末に日本と外国の文化の違いに触れる話が掲載されていた。また、手話で話す友だちの話もあり、人権感覚を養う視点も見られた。 ○5・6年生も上下巻。(重さの軽減、新しい教科書に出会う喜び、ゆとりをもった紙面) ○色と模様の組み合わせを揃えて見やすくしている。 </p>	

種目【国語】

書名 項目	ひろがる言葉 小学国語	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「読むこと」教材の手引きが、①たしかめよう、②考えよう、③深めよう、④広げよう、の4ステップ構造になっており、学習の進め方が明確である。また、それぞれの学習過程に対応して、「自分の考えを形成するための観点」が示されていて、確実に知識・技能が習得できるように工夫されている。</p> <p>○子供たちが、必要な情報を取り出し、情報どうしの関係を整理できるように、「ここが大事」や「大事な言い方」などでポイントとなる語彙や文型を取り上げている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○「話すこと・聞くこと」では、話し合いや発表・報告、ディベートなど、「書くこと」では日記・手紙・報告文・ポスター・意見文など、様々な言語活動が示されており、日常の場面で生きて働く言葉の力を養うことができるよう工夫されている。</p> <p>○思考を整理したり、まとめたり、可視化したりするための付箋やノートの使い方など、学習のツールを多く例示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○「読むこと」教材の手引きが、子供一人でも学べるように、大きな字で詳しく書かれている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、スピーチや作文の例が提示してあり、参考にしながら活動を進めることができる。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○伝統的な言語文化が多く取り上げられている。低学年では言葉遊びや昔話など、中学年では日常生活の中から慣用語や短歌など、高学年では古文・漢文、伝統芸能などである。</p> <p>○「漢字のひろば」では、ワークのように書き込むことができる。</p> <p>○4年生では、社会科と関連して「都道府県名に用いる漢字」が掲載されている。</p> <p><読書に親しむ態度を育てるための工夫></p> <p>○「本を読もう」のコーナーが随所に設けられている。「読むこと」の単元では関連した図書の紹介が、また付録では様々なジャンルの図書が紹介されており、子供たちが興味をもちやすいように工夫されている。</p> <p>○読書カードの作り方や、記録の残し方、感想の書き方など、学年に応じて紹介されている。</p>	
資 料	<p>○挿絵や図表の色づかいがやさしく、見やすい。</p> <p>○学習効果を高めるための補助資料が多く掲載されている。</p> <p>○2年生の「カード作り」では、用紙が付録としてついている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○ユニバーサルデザインを意識した読みやすい字体を用いている。</p> <p>○熟語などの表記は上学年の漢字をルビ付きで使用し、不自然な交ぜ書きを避けている。</p>	
総 括	<p>○確かな学力を育むための工夫が随所に見られる。学習の進め方が明確で、子供が主体的に学ぶことができる。また、多様で活発な言語活動が示されており、それらの活動を繰り返していく中で、様々な国語の力が身に付くように構成されている。</p> <p>○伝統的な言語文化や漢字、読書指導についても楽しく学習できるように工夫されている。</p> <p>○5・6年生も上下巻。(重さの軽減、新しい教科書に出会う喜び、ゆとりをもった紙面)</p>	

種目【国語】

項目	書名 国 語	3 8 光 村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学びを確かめ、次につなげる工夫として、単元の最後のページに「たいせつ」と「いかそう」が示されている。特に、「いかそう」では、他教科や日常生活に活用する視点が示されている。 ○各単元に、身に付けたい力を「たいせつ」欄に箇条書きで整理されている。 ○「話すこと・聞くこと」の単元では、どの指導事項に重点を置くのかが明示されており、児童にも分かるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の学びが一覧できる「学習」のページに、学習の流れ（とらえよう、ふかめよう、まとめよう、ひろげよう）が提示されており、自ら、どのように学習に取り組みばよいかわかるようになっている。 ○「情報」のコーナーを多く設定し、情報を的確に理解し、表現につなげたり自分の考えの形成にいかしたりしていけるように2～6年生まで、系統立ててある。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「国語の学びを見わたそう」では、前学年の学びと一年間に学習することを見渡すことができる。 ○「ふりかえろう」では、新しい3つの評価の観点に沿った自己評価ができるようになっている。 ○「二次元コード」によるデジタル資料（教科書に対応した動画や学習の参考となる資料）が全年掲載されており、児童の主體的な学びに活用できるようになっている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫> ○「季節の言葉」が、年4回設定されており、季節を感じる言葉や詩歌を色彩豊かな挿絵とともに掲載されている。また、写真や絵などが充実しており、伝統文化に親しんだり、豊かな言語感覚を養ったりするように工夫されている。 ○2年生以上の各巻巻末に、「言葉のたから箱」が設定されている。そこでは、その学年に応じた語彙を提示しており、語彙を系統立てて、増やしていけるように工夫されている。</p> <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫> ○読書に親しむ工夫として、全学年、読書単元が年間2カ所、設定されている。本を紹介するための「この本、読もう」や巻末付録「本のせかいを広げよう」では、表紙写真を掲載し、子供たちの興味・関心を高められる工夫がされている。また、本を読んだ後の記録の仕方など、学年に応じて、提示されている。また、「本の世界を広げよう」というコーナーでは、子供たちが手に取りやすいものを選定されており、学校図書館を積極的に利用していけるように工夫がされている。</p>	
資 料	○教材の選定が前回と比べ、大幅に変更されている。文学的作品等は、継続されている。 ○1～4年生は上下巻。5・6年生は、学年1冊になっている。中学校入学時の環境の変化に適應するための配慮がされている。	
表 記 ・ 表 現	○配色や罫線を取り入れた紙面の構成など、配慮されている。 ○教科書体で表記されており、書き文字に近く、正しい字形を意識しながら学習することができる。	
総 括	○語彙を増やす工夫や情報を読み取り、考える力を育てる工夫など、各学年に応じた内容を系統立てて設定されている。 ○「単元扉」が新設され、児童が学習の目的をもって学習に取り組めるようになった。 ○「読むこと」の単元では、学習の手引きが、「学習課題」と「言語活動の手順や観点」の2段階で構成されており、学習の流れが明確になっている。	